

ため池の決壊

降水量が少なく大きな河川がない香川県では、古くからたくさんのため池がつくられてきました。築造以来、修繕や改築が行われてきましたが、豪雨や地震により決壊することがありました。西讃地域の2つのため池の決壊事例をご紹介します。

■茨谷池の決壊（香川県観音寺市）

大正10年（1921）6月、連日雨が降り、和田村（現観音寺市）の各溜池は満水状態になっていました。寛永8年（1631）築造の茨谷池（ばらたにいけ）も堤防の地盤がゆるみ、池係りの人や村民が警戒していましたが、一瞬の間に堤防の外側が崩れ、間もなく堤防が決壊し、白坂川一帯が洪水となりました。このため、長谷集落の民家およそ8戸が全壊または流失し、半壊、一部破損も数軒ありました。また、長谷、道溝などの良田約5町歩が流失、荒廃しました。豊浜町と和田村の境界付近は予讃線の道床が高く築かれていたため、これで大水は防止され、豊浜町は川端・東町の一部に浸水があった程度で大難を免れました。復旧工事完成後に、茨谷池は鶴亀池と改められました。＜豊浜町誌編集委員会編「豊浜町誌」1974年、讃岐のため池誌編さん委員会編「讃岐のため池誌」2000年＞



■大谷池の決壊（香川県観音寺市）

昭和21年（1946）5月9日、大野原町（現観音寺市）の大谷池の堤防が決壊しました。文明2年（1470）に築造された大谷池は、午前5時30分頃、副堤の一部から漏水し始め、午前8時に決壊、8時30分頃にはすべての池水が流失しました。荒れ狂う濁流は、堤防直下の上池、豊池に流れ込んでこれを決壊させ、西丸井、福田、丸井南の3集落を襲い、栗井村向本庄付近で柞田川の堤防を破壊して柞田村から観音寺町を浸水させました。これにより死者6人、田流失50町歩、家屋流失55棟、罹災者800余名という被害が出ました。この悲惨な水害を記念して17年目の昭和37年5月9日に、流れてきた石の一つを用いて頂懸神社の参道前に大谷池水害記念碑が建立されました。＜新修大野原町誌編さん委員会編「新修大野原町誌」2005年、紀伊村誌編集委員会編「紀伊村誌」1972年＞

